



2018-19 週報 パワー浜松ロータリークラブ

「能動的に参加し、お互いを高めあおう」

RI 会長 バリー・ラッソ / 第 2620 地区がバナー 星野義忠 / 会長 鷲津有一 / 幹事 鈴木一広
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークアクトシティホテル浜松 4307 号室 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002 年 10 月 22 日 認証伝達式：2003 年 4 月 29 日 スポンサークラブ：浜松中 R C



第744回例会12月4日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラアクトシティホテル浜松 3 階 チェルシーの間
- 司会：稲野清治 中野雄介 ■点鐘：鷲津有一 ■週報：松島弘明
- ロータリーソング：「それこそロータリー」
- ゲスト：LaLa カレージャパン代表取締役、弁天島花火フェスティバル実行委員長
廣畑秀明様
米山記念奨学生 肖 英華さん

出席報告/スマイル報告

会員数 77 名 (内出席免除会員 2 名)
出席数 54 名 出席率 72%
前々回出席率 69.33%

- ① 鷲津有一会長
- ② 国際奉仕部会一同

会長挨拶

おはようございます。
卓話ゲストの廣畑英明さん、早朝よりお越し頂きありがとうございます。
先週の木曜日、兄クラブである浜松ハーモニー R C 創立 20 周年記念式典があり、鈴木幹事と出席してまいりました。記念事業として、はままつフラワーパーク内の藤棚の手前あたりに「常緑ヤマボウシ」を植樹されたそうです。ヤマボウシは、春から初夏にかけて白い花を咲かせ、秋には朱い実をつけ、寒くなると紅葉する樹木だそうです。ヤマボウシを選んだ大きな理由は、ハーモニー R C が最も大切にしている「友情」が花言葉だからということでした。また、5 団体に特別寄付金を贈呈されました。祝宴中のアトラクションでは、ハーモニー R C が支援しているモンド・デ・アレグリア学校の生徒 8 名による和太鼓演奏でした。息の合った迫力ある演奏に多くの出席者が食事の手を止め聞き入っていました。
また、当日は天皇皇后両陛下がモンド・デ・アレグリア学校を訪問され、ハーモニー R C の代表数名もその場に立ち会うことができましたそうです。お言葉を交わすことはありませんでしたが、間近で生徒さんと言葉を交わす姿を拝見し、思わず涙が込み上げるほど感動したそうです。もともとは 7 月に訪問予定だったのが西日本豪雨により延期された日が、偶然にもハーモニー R C 20 周年式典当日と重なり、クラブ関係者はとても喜んでいました。



幹事報告

ロータリーの友、10月号をレターボックスに入れましたのでご確認をお願いします。



委員会報告

社会奉仕部会 松本由紀彦会員

12月8日(土)の午後になゆた浜北で行われる認知症サポーター養成講座の案内。



社会奉仕部会 奥山恵理子会員

認知症サポーター養成講座の講師を務める奥山会員から講座について説明及び案内。



親睦部会 鈴木直幸会員

12月8日(土)に行われるクリスマス例会の案内。



米山記念奨学生 肖 英華さん
奨学金の授与の後、近況報告。



議 事

廣畑秀明様 卓話「弁天島花火フェスティバル」について

担当 国際奉仕部会

LaLa カレージャパン代表取締役の廣畑秀明様をお招きし 2013 年を以て 80 年の歴史に幕を下ろした弁天島花火大会を“火を消さない”という意気込みで集った地元の若手有志達が 2014 年から開催している「弁天島花火フェスティバル」について卓話を頂きました。

※詳細は次ページへ

議 事

廣畑秀明様 卓話「弁天島花火フェスティバル」について

担当 国際奉仕部会

LaLa カレージャパン代表取締役の廣畑秀明様をお招きし2013年を以て80年の歴史に幕を下ろした弁天島花火大会を“火を消さない”という意気込みで集った地元の若手有志達が2014年から開催している「弁天島花火フェスティバル」について卓話を頂きました。



廣畑様はマーケティングを学んだ後、2009年にLaLa カレージャパンというスリランカ専門の製造メーカーを開業しました。

お父様がスリランカ出身ということもあり、30種類のスパイスを使用した小麦粉を使わないグルテンフリーの家庭のカレーをベースとしたカレーを製造・販売してきて、2年前にはレストランも出店されています。

廣畑様は東日本大震災の時に現地で復興支援活動を行った事を機に、社会貢献を意識するようになりました。

そして2012年を最後に弁天島花火大会が80年の歴史に幕を下ろすというニュースを聞いた時に何か自分が地元で貢献出来る出来ないかと思ったことが弁天島花火フェスティバルのきっかけです。

ちょうどその頃、舞阪町の基盤産業である漁業が不漁に見舞われ弁天島花火大会の終了と重なって街全体が暗い雰囲気になっていました。

何か自分たちに出来る出来ないかという思いを持った数人の有志が集まり活動を始め、弁天島花火フェスティバルの開催を決めました。

初年度は60発の打ち上げ花火、来場者数は1,000人に満たないところから始め、昨年度は2,000発の打ち上げ花火、来場者数約30,000人のイベントにまで成長しました。



公共交通の利便性の良さやビーチがある強みを生かしつつ、アーティストを花火大会に招いてポスターを作成したりラウンジを設けたり等、フェスの要素を盛り込みイベント全体のイメージアップを行うなど他の花火大会との差別化を図り集客力を高めるとともに寄附をして下さる皆様

方の企業イメージアップに繋がるべく工夫されています。



スマイル報告

① 鷺津有一会長

廣畑英明様、本日はありがとうございました。私が子供の頃見たり、子供を連れて行って見た弁天島花火大会を懐かしく思い出しながらお話を聞かせて頂きました。

その頃とは弁天島の様子もずいぶん変わってしまいましたが、花火大会の復活を通して地域活性化へ取り組む活動は素晴らしいと思います。今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

② 国際奉仕部会一同

廣畑英明様、本日はありがとうございました。これからのご活躍を期待しています。メンバーの中でスポンサーになれる方がいらっしゃいましたらよろしくお祈りいたします。